

開催日時：2002年9月21日(土) 13:30~16:45

場 所：川西市商工会館 4階多目的ホール

参加者数：委員10名(うち1名は部会長の要請により参加)、一般傍聴者44名

1 意見交換概要

庶務より「中間とりまとめ」概要を報告した後、3組の意見発表者から各20分間、猪名川に関するご意見をうかがい、委員との意見交換を行った。

<意見発表者による主な発表内容>

止々呂美地域まちづくり協議会 会長 奥村実氏、上止々呂美自治会 会長 酒井精治氏、下止々呂美自治会 会長 塩山慶司氏

止々呂美地域は、当初はダム建設には反対だったが、国・府の強い要望もあり、過疎地域を活性化するまちづくりのため、「ダム湖周辺住宅地開発の早期実現」と「既存集落地区との整合の取れたまちづくり」を条件に基本協定を締結した。しかし、地元の要望は遅々として実現されず、地元を置き去りにした行政の姿勢に不安を抱いている。行政の都合で翻弄されることは決して許されるものではなく、1日も早いまちづくりをお願いしたい。

池田市神田小学校 教諭 西義司氏

猪名川水系に棲むクワガタ虫を描いた「コクワの冒険」という紙芝居を通じて、人と自然の共生について考えた。猪名川の河原はクワガタが住む貴重な場所であり、里山や街を流れる猪名川を人と自然が共生していく場にしていくために、自然にやさしい河原やワンドを作り、魚釣りやカヌー遊びができる川にしてゆくべきだ。

環境川西街づくり協議会 代表理事 管野敬氏、森脇章夫氏

自然はかけがえのないものである。自然環境を基本にした治水・利水を考えていく必要があるのではないか。また、将来にわたってお年寄りや子どもたちが住みよい地域づくりを、行政主導ではなく、ボランティアの手でつくっていかねばならないと思っている。

<主な意見>

- ・余野川ダムがなくても、持続可能なまちづくりは可能ではないか。(委員)
- ・余野川ダム建設予定地は昆虫の宝庫だが、地域の住民の意見も理解できる。人間とダムと自然が共存・共栄するための手段を考えるべき。(発表者)
- ・猪名川になぜクワガタがいるのかわからないが、上流の里山から一気に街に流れ出る川だからかもしれない。
- ・子どもたちの自然離れを危惧している。魅力ある生物を通じて自然を体験してもらう必要がある。(発表者)
- ・自然環境に対する住民の意識や関心の低さが指摘されている。これをボランティアによってサポートしていく方向性を打ち出していけばよいのではないか。(委員)
- ・人間は河川整備によって水の循環を断ち切ってしまった。川の連続性を取り戻していかなければならない。(発表者)

2 一般からの意見聴取

一般傍聴者3名から「猪名川の水質検査が下水処理場の直下で行われている。改善すべきだ」「子どもたちにきれいな川を残すために、魚を通して自然を考えていきたい」、「ダム建設とまちづくりは全く別の話である。どうすれば地域発展につながるのか、関係各者がもう一度しっかり協議した方がよいのではないか。」などの発言がなされた。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を参照下さい。